

秋季皇靈祭の朝の二時間

東京女高師助教授 平 島 權 藏

五歳になる男の小供を連れて目黒植物園から裏の野原に出で、五反田に參る邊の途中の間答の一節を骨子にして少し許り考を申上げて見たいと思ます。

市内電車を離れ、橋を渡つて左に曲ると、小供は突然に。

兒「御父さんアゲハが來ました、花も無いのにナゼ此木に止まるのですか」。

私「此木はカラタチといふので、アゲハは是に卵を産むのです。卵が來年の春に孵化つて、小さな蟲になつた時に、鳥などに捕られない様に、コンナ枝や刺のイツバイ在る所に、卵を産んで置くのです。そして、小さな蟲が出ると、此の木の葉を食べて大きくなつて、ソレカラ又蝶々になるのです。花に來る時は、花の中の蜜を吸ふたり、露を吸ふのでカラタチには卵を産みに來るのです」。

(參考。カラタチの中にはオキクムシといふアゲハ

の蛹を見出す事は容易で有ります。是を持歸つて成る可く内部の見得る器の中に入れて置くとき後に蝶々が出ます。

又此頃は毛蟲や芋蟲青蟲などの大きいのが居ります、これを其蟲が止まつて居た植物の葉で育てると、日ならずして蛹を作ります。是が來年蝶々になつて出るのを實驗するのは、小供の爲に面白い事と思ます)。

兒「御父さん蝨の様な蝶々が煉瓦に止まつて居ます。取りませうか?」。

私「御捕りなさい」。

都合よく捕れました。

私「此蝶々は蝨の様だから「ホタルテフ」といふのです。持つて歸つて仕舞つて置きませう」。

其から、小さな野原に出ました。其所にタケニグサの少しく紅葉しかけたのが有りました。

兒「此モミヂ變なのですチー」。

私「是は紅葉では有りません。タケニグサといふので折ると黄色い汁が出ます。汁は毒です」。

(タケニグサといふのには何の興味も出ないのでしたが名稱を聞かれた時に教へるのは必要と思ひます。)

兒「ギン(ギンヤンマの雄)が澤山居ますチ。ムギワラが居ます。シホカラハ居ませんチ」。

私「シホカラつてドンナのですか」。

兒「ムギワラの様なので白いのです」。

私「あれは、ムギワラが雌でシホカラが雄なんですよ。兒「トンボの卵は何所に産みますか。?(アゲハのから思つたらしい)。

私「トンボは、水の中に卵を産むのです。ギンやチャン(ギンヤンマの雌小供は是をチャンと呼ぶ)が夕方になると澤山に飛んで居るのは、小さな蟲をこつて食べるので、蚊もこつて食べる。それから、トンボの小供はヤゴといふので、是は水の中の小さな蟲を捕つて食べる。ポーフラといふ蚊の小供を取つて食べる。トンボは私達を刺すいやな蚊や蚊の小供を捕つて食べてくれるのだから、ムヤミニ殺してはいけ

ませんよ」。

(参考。水中のヤゴ(又、タイコムシといふトンボ類の幼蟲)を捕つて来て、ボウフラを餌にして飼つて置く。後にはトンボが出て來ます。ヤゴは保護色で泥色をして居ますから、能く注意せぬと捕れませぬ。ヤゴが水中から這ひ出して、背中が裂けてトンボになつて飛んで行くまでの時間は、數時間かゝりますが、是などを觀て居ますと、若いトンボが初て空中に飛び立つ時の心は、如何んなものかど誰にでも考へさせずには置くまいと思ひます。此様な事は想像はダメで、實際の場合に立つて初めて起る感想で有ります。如何に考へるかは、其人々の心の儘で、種々の相違が有ります。が、小供などには決して悪い感化は與へまいと思ます。注意深い一種の勇氣を奮ひ起させる事が有りはせぬかと思はれます。今或る人の實際にサナヘトンボの蛹即ちヤゴ(此様な運動する蛹を運動蛹と申して蠶の繭の中に潜む蛹などゝ區別します。)が脱皮するのを觀察した報告によつて、其時間だけを左に掲げて置きます。頃は四月下旬

一、午前九時五十四分……充分生熟したヤゴ水中

より出づ。

二、同 十時五十一分……ヤゴの胸部背面裂初む。

三、同 十時五十二分……頭部の複眼及び胸部現はる。

四、同 十時五十五分……頭を擡げて胸部を殻からゆり出す。

五、同 十時五十八分……前脚から順々に三對共に出る。

六、同 十一時……胸部と腹の前部が抜け出す。

七、同 十一時七分……體全部が殻から出た。

是から次第に腹部が伸び、翅も成長して行き、翅は透明になり、體色は變り、全體に光澤を帯びて來て數回羽ばたきの後先づ、二間程飛んで草の葉に止り、二三分の後に、藪を越え垣を越え家を越えて空中遙かに飛んで行つた。

と有ります、此様な事を小供に觀せてやれば、如何んなに喜ぶで有りませうか。又如如何に偉大なる教訓を教ふるで有りませうか。長い冬の間を水の中の暗い所で過して居たのが、今此嬉しい空

中飛行を初め、自由に思ふ所に飛んで行かれるといふ事に就ては、強い感化を與へ得る事と思はれます。

其れから目黒植物園に參りまして、猿の雄雌と一匹の小供との動作を飽かず眺めて、容易に動きません。其他、白孔雀や小鳥などに就ても、種々の質問も出しましたが、餘り長くなりますから今回は是で御免を蒙ります。唯此園内で、植物の名稱を聞きましたが左の數種で、悉く教へて遣りました。

ハス、宅に二三株のサトイモが在ります。其を思出したがハスを見て是はオイモですねと、聞きまして。其から一通の説明をしてやりました。

後に宅のサトイモをハスイモだと申したそうで有ります。

ハナシヨウブ、花は無くて實が有りました。

ハギ、赤と白と有つて眞盛りでした。

フヨウ、是も赤白二種有りました。

フトキ、之は實が出来て居りました。

シラン、咲き初めで有りました。

其から歸途には馬蹄を打つて居るのを見て、痛くないかと聞きましたので、吾々の爪を切る事を比較し

て話しましたら喜んで聞きました。

一度帰宅しましたが、午後に兄や姉が同じ方面に散歩に行くのに、又ついで行きたいと申しますので、疲

れて居はせぬかと申ても、決して疲れては居ないと申で、どうどうついて行きました。餘程面白かつたと見えます。

玩具選擇上の標準

東京女高師講師

藤 五 代 策

普通日用品の商店であると、景氣不景氣によつて賣行きに多大の影響を及ぼすものでありますが、唯玩具のみは子供の必需品として無ければならぬ品物ですから、平和の時には平和向の玩具が流行して、戦争の時には戦争向きの玩具が賣行くので、玩具に凶年なしとはよく謂つたものであります。殊に東京市中の玩具小賣店は五百餘軒もありまして、巧妙な形状と、美麗な彩色とになれる玩具で、店內一面が裝飾されてありますから、實に市中の花ごまで呼ばはれて居ります。そこで玩具を渴望する子供、愛兒を育ぐくむ母親達は、絶えず此の玩具店を訪づれて居るのでございます。

偕て態々玩具を需めやうと云ふことになりまして、あれもよい、是れも宜しからふと、氣が轉々に移り替つて、容易に決定し兼ねるのでございますから茲には玩具の選び方の大體の標準をお話したいと思ひます此の標準に付ては、學者間に色々調査したのもあります。或人は年齢によりて選擇し、又子供の心理状態を主として選ぶがよいとも申されますが、私は左の如き意見を有つて居ります。

(一) 乳兒用の玩具。おしやぶり、乳首、ゴム人形、ガラトク、風車、起上小法師等。

(二) 模倣用の玩具。一掃除玩具、まゝ事玩具、化粧用玩具、春駒、兵隊用玩具。

(三) 練習用玩具。竹笛、ハーモニカ、鐵琴、劍玉、獨樂、輪投げ、お手玉、竹がへし等。